

特集

第12回 SRお客様交流会

2011年2月17日(木)
in 大田区産業プラザPiO

SRを活用する、また検討中のお客様同士を結びつけるSRお客様交流会。第12回目を迎えた今回は、「もっと知りたい ちょっと知りたい」がテーマ。SR導入事例発表や分科会などに97社139名のお客様にご参加いただきました。

ご講演

1. 合言葉は「急がば回れ!!」 SRで交通事故撲滅と無事故継続を目指す
特定・特別医療法人頌徳会 殿 P1
2. 社員の安全を守る第一歩
SRで事故削減50%を目指す
株式会社スズケンロジコム 殿 P2
3. 社員の創意工夫と情熱で、環境大臣賞受賞
エコドライブや環境活動にSRは必須ツール
丸吉運輸機工株式会社 殿 P3
4. 分科会レポート、イベント紹介 P4

特集
1

合言葉は「急がば回れ!!」 SRで交通事故撲滅と無事故継続を目指す

特定・特別医療法人頌徳会

しょうとくかい
総務部 総務課 安藝 行彦 様



特定・特別医療法人頌徳会

所在地：大阪府堺市東区北野田
設立：1979年
代表者：理事長 日野 頌三

事業内容：保健・医療・福祉サービス
車両台数：30両

SR導入：2008年8月 車両30台にSRPocket、またはSRVideoを導入済
(訪問サービス/訪問看護・訪問リハビリテーション等に
使用する軽自動車に設置)

会社概要



SR導入効果 ～数値的な結果+数値化できない大きな相乗効果を得た！

効果1 訪問看護で**11件が2件に!**
2005年度と2010年度との比較

効果2 自動車保険割引率**33%が70%に!**
2006年度と2010年度との比較。保険割引率が最高に

2 SR導入の背景と経緯 ～減らない事故を減少させる安全ツールとして

SR導入前は、年間約20件(軽微なものを含む)の交通事故が発生していました。2005年には「安全運転委員会」を立ち上げ、交通安全の啓蒙に努めていました。しかし、なかなか事故が減らないため、SRをデモ導入したところ、急制動や急ハンドルの注意挙動が多数発生していたことが判り、その後、正式にSRの導入を決定しました。

社員にとって車は「移動の手段」であり、運転が本業ではないため安全への意識は高くありませんでした。「(SRによって)監視されている」という意識を社員に持たせずに、社員の安全運転意識を高めることを課題とし、安全運転で「無事に帰ってきてほしい!」という言葉を繰り返し伝え、理解してもらうことに努めました。

3 SR導入・運用時の工夫 ～「急がば回れ!!」の合言葉で、患者さん優先の考え方へ

SR導入によって運転が慎重になり、「訪問時間に間に合わない」という意見が社員から出るようになりました。そのため、いままでの取り組みに加えて「訪問スケジュールやルートの見直し」「定期個人面談」等の実施を行い、「急がば回れ!!」を合言葉に事故によるデメリット(事故を起こすと訪問看護ができず、患者さんに迷惑をかける)を説き、同時に安全運転は自分や家族を守ることに繋がることを理解してもらいました。

SR導入前
SR導入後

①安全運転委員会の開催・②講習会等の実施
安全運転実技講習会の実施(毎年)

①は年4回開催、
②は毎年開催
毎年開催

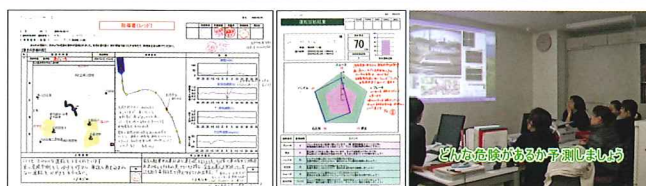
訪問スケジュール・ルートの見直し
定期個人面談の実施

心にゆとりを持って安全運転を行うため
注意挙動を管理者と部下と一緒に振り返る

急がば回れ!! 一歩踏み込んだ「患者さん優先の考え方へ」

4 SR推進の取り組みと今後の課題 ～運転を振り返り、問題点を気づかせる

特に要注意のSR点数が出た社員には「指導書(レッド)」が渡されます。これにはSRデータの分析結果が記載され、自分の運転で何が問題なのかを考えさせ、改善点を書き込むようになっています。また、事故が発生した場合は「交通事故報告書」を作成し、事故の発生状況や原因の分析、問題点の対策・改善検討など詳細にレポートさせます。さらに事故を未然に防ぐ取り組みとして、SRVideoの走行データを元に「危険予知トレーニング」を行っています。今後は、交通事故の発生件数0件(軽微なものも含む)を最終目標とし、最低でも前年度比マイナスを目指します。SR導入で「注意挙動がなぜ発生したか?」を振り返ることで、ドライバーの危険予知能力を高めることができました。今後



「指導書(レッド)」には、「本人振り返り」を記載した上で「車両管理責任者→所属長→安全運転管理者→総務部長」の順で捺印されていく(左)。右は、看護師を集めた危険予知トレーニングの様子

は、SRに対して、「操作性の充実」や「SRネットの充実」を期待したいと思っています。

株式会社 スズケンロジコム

管理部 部長 **長井 忍** 様(右) SR推進チーム **坂井 愛** 様(左)



株式会社 スズケンロジコム

所在地: 愛知県名古屋市東区
 営業拠点: 名古屋営業所・中村営業所
 熱田営業所など110カ所
 設立: 1953年4月23日
 代表者: 代表取締役社長 松下 晴海

従業員数: 3,702名(2011年1月現在)
 事業内容: 医療用医薬品卸売事業の物流を担う。
 生命関連商品である医薬品を中心に扱う物流専門会社
 車両台数: 1,400両
 SR導入: 2010年7月 SRお客様交流会に参加
 2010年8月 11営業所にSRPocketを135両の営業車に導入

会社概要



1 導入の背景と経緯 ~注意喚起の施策ではなく、運転技術の向上が必要と気がつく

2008年、車両の増加にともない交通事故が増加傾向にあり、50%削減を経営目標として「交通事故撲滅プロジェクト」を立ち上げましたが、結果的に交通事故が増加となりました。「注意喚起の施策が中心で運転技術の向上が図れなかった」ことが反省点であり、貨物運送事業者として「もっと運転技術の向上を目指すべき」という想いが芽生えました。

2009年10月、半田営業所にてSRのトライアルを実施。その際、データ・テックから「**ふんわりアクセルだけをやってみてください**」という助言だけで燃費が5.5%向上しました。燃費効果以上に、可視化された日常運転を科学的データに基づいて、**運転技術が向上できることに注目**。これによって1つでも多くのヒヤリハットをなくすことが、交通事故の削減につながると感じました。

2 SR推進の取り組み ~入念な準備を行い、導入後も様々なアイデアや工夫を盛り込む

2010年6月、愛知県の車両135台へのSR導入が決定しました。当社では運行管理者はプレーイングマネージャーであり、現場だけにSR推進を任せることは大きな負担をかけることに繋がります。これら現状を踏まえて、現場の所長や運行管理者の協力を得ながら本社管理部が推進するSR推進チームを設置しました。SR導入にともない、①「運転技術向上による事故50%削減」、②「トライアル時の燃費効果と、SR耐用年数(5年)と導入コストから算出した目標燃費効果(10%)の実現」の2つを目標とし、「**真のプロドライバー(運転マニア)の育成**」を目指しました。併せて営業所リーダー向けの導入説明会を実施し、データ・テックから他社事例やアドバイスを得ながら「運用スケジュール」を決定。SR導入にあたり、車載に関しても「車種による点数差が出ない場所」「メモリースティックの出し入れしやすい場所」などを入念に検証。これらは「**負担をかけず、ドライバーのためにできることはやる**」という推進チームの意向からでした。具体的なSR導入の準備としては、日々の安全運転を心がけるためにSRのマニュアルを熟読・理解した上で、ドライバー自身が解りやすい「運用マニュアル」を作成。

車載作業が完了後、現場と本社が一体となって円滑なSR運用のための準備・確認をするキックオフ会議を実施しました。SR導入後、目的が社員にうまく伝わっていないことを受け「ドライバー向け支店勉強会」を開催。「SRの目的は**社員の管理ではなく、事故からドライバーを守ること**」「主役はドライバー。まずは点数を上げることを考え、試行錯誤してほしい」と伝えました。また毎月の結果報告会では「強化ポスター」や「SR結果速報」を作成することで、「目標の見える化」の工夫を積極的に行いました。



SR導入4カ月で燃費効果 約10%向上!

SR推進チームが策定した2つの目標。SRを導入してまだ4カ月だが、全11営業所全体で10.3%の燃費向上を達成した
 (2010年1月と2011年1月比較)



手作りの運用マニュアルは「運転者編」「営業所編」の2つを用意。ハードとソフトの使い方を、写真や図で丁寧かつわかりやすく解説している



点数向上のため毎月1つの項目に絞って取り組ませる「強化ポスター(左)」改善率の高い人や無事故・無違反者を褒める「SR結果速報(右)」

3 今後の課題 ~効果に繋げるため、推進チームがドライバーを積極的に牽引していく

本格導入後、3カ月が過ぎて「上がらない点数」「減らない指導書」という現実を目の当たりにして、推進チームではあせりが見えはじめました。「指導書が出る＝ダメな運転」ととらえ、ドライバーが指導書の多さに慣れてしまい、危機感がなくなる状況がありました。そこで指導書が出たら正しい振り返りをするため、日々推進チームはフィードバックを行うなど運用の変更を実施し、ドライバーの気持ちが折れないよう「見える結果で応えたい」と努めました。データ・テックとの定例会でも「解析結果や指導書の見方」「課題対策」等を繰り返し、**推進チーム自らが「SRマニア」になる必要性を強く感じました**。すると、豊田営業所をはじめ、「良い変化」が表れてきました。今後の課題は、SRの否定的な気持ちや点数の伸び悩みから生じる「営業所内や営業所間での温度差」をなくすことです。そのバックアップ体制や点数向上の環境づくりを目指すため、今年の1月から

推進チーム自ら現場に出向き、SR運用の確認や同行による運転確認を実施することで「**ドライバーに直接聞き、直接話す**」機会を作りました。今後とも現場推進体制の強化のための体制づくりを、データ・テックとともに推進していきたいと思っています。



会社の方針を率先して実行し、メンバーに見せます! リーダー自らが高得点を出すことで、お手本となります。



お客様先にいち早く着くことを優先していましたが、毎日点数が出ることで、運転マナーについて考えるようになりました。

豊田営業所のリーダー、ドライバーともにSRの効果を確実に実感し始めている

社員の創意工夫と情熱で、環境大臣賞受賞 エコドライブや環境活動にSRは必須ツール

丸吉運輸機工株式会社

関東営業所所長 石澤 道哲 様

URL: www.maruyoshi-group.jp



見える化の徹底と社員一丸となった活動が結果につながった

弊社は平成22年度エコドライブコンテストにおいて**環境大臣賞を受賞**いたしました。エコドライブ推進によって燃費効果や事故削減以上に「社内活性化」と「社員レベル向上」を実感しました。エコドライブ推進活動の中で注力したのが、「活動の見える化」です。例えば、エコドライブや環境活動など会社の方向性が、社員にきちんと伝わるようにわかりやすい資料を作ることを心がけました。ドライバーに対しても「流量計燃費実験」を行うことで、積載物

の重量差やドライバー（運転技術）・車両の違いなど様々な条件で検証。具体的な数値やデータ化によって**SR活用によるエコドライブの有効性を「見える化」**しました。

その他、社員全員が積極的に参加し、楽しみながら環境活動を継続できる工夫やアイデアを積極的に取り入れました。その結果、事故削減や省燃費効果以上に社内の活性化や**社員の団結力が得られ、「結果より過程が大切」**ということを実感しました。

次回のSRお客様交流会で事例発表をお願いします
会社様にご挨拶をいただきました！

SRを360台導入開始!!
株式会社ローソン様の
安心・安全・安定した配送を
SRで実現したい



食品の卸業を行う会社で、お客様である株式会社ローソン様の推薦もあり、昨年6月にSR導入を開始しました。ローソン様への「安心・安全・安定」した配送を目指すべく、日々がんばっていきたく思います。次回の発表会では、その成果をご報告したいと願っています。

株式会社 菱食 大野 様
URL: www.ryoshoku.co.jp

大好評!



SRをもっと身近にする『Safety Rec』 SNS連動でさらに便利に、おもしろくなる!!

データ・テック社製のiPhone用セーフティレコーダアプリ『Safety Rec (セーフティレック)』をインストールするだけで、iPhoneをセーフティレコーダとして手軽に利用できます(写真)。車の挙動を1秒間に10回計測して、ドライバーの運転操作を「アクセル」「ブレーキ」「停止」「右左折」「ハンドル」の各項目20点満点(合計100点満点)で点数によるドライブ診断ができます(図1)。iPhone内蔵のGPSや加速度センサーを使い、位置情報や速度、イベント(危険挙動)発生前後の映像などを記録する「データ記録」機能を搭載しています。地図上の走行軌跡を表示し、危険挙動や1分ごとの写真、記録映像がある場所などをアイコン表示可能にする「走行マップ表示」機能などを多数搭載しています(図2)。

昨年末の有料配信開始以来、一般ドライバーに大好評を得ており、Safety Recのファンが増えています。

事故予防のためのやさしい安全運転や燃費向上のためのエコドライブの教習はもちろん、ゲーム感覚で、家族、友人たちと得点を競い合ったりするのも面白いと好評です。また、優しい運転、エコドライブが急速に拡がりを見せており、ドライブの走行データ記録のためなどユーザー間での情報交換も活発になってきました。

この流れを受けて、データ・テックでは、今話題のソーシャルネットワーク(SNS)「Facebook」と「いまどうしてる?」で繋がるコミュニケーション情報サービス「Twitter」に、Safety Recユーザー向け情報交換ページを開設(図3)。Safety Recに関する最新情報やお役立ち情報などを公開中です。



写真 iPhoneをダッシュボードなどに車載することで、手軽にSRとして使える



図1 ドライブ診断結果をスムーズ、ブレーキ、停止などの5項目についての点数と、診断結果をレーダーチャートで表示可能



図2 地図上に走行軌跡を表示し、危険挙動、任意映像、日常映像がある場所をアイコンにて表示できる



図3 Facebookに開設されたSafety Recユーザー向け情報交換ページ

URL: www.facebook.com/datatec.jp

Safety Recの詳細はこちら!
URL: www.datatec.co.jp/safetyrec

ダウンロード価格
600円(無料お試し版あり)

SRによる安全と環境、経営について 同業・異業種で大いに語り合う

各社のご講演の後、お客様のグループごとに7つのテーマを設け、SRに関する意見交換会を実施。それぞれの代表的なご意見をご紹介します。



テーマ1 もっと知りたい「安全対策」と「安全教育」

会社のトップがなぜSRを導入するのかを十分に理解し、トップが主体的に取り組むこと。SRは「**会社のためではなくドライバーのため**」であることを**トップ自身の言葉で伝える**。SRを安全運転教育だけでなく、社員間のコミュニケーションツールとしてとらえ、様々な社内活動に結びつけることも有効である。

テーマ2 収支日計で変わる! 儲かる物流会社経営

昔から運送・物流会社は、「経営者の経験と勘で、頭の中で計算して利益不明のまま仕事をしてしまう」という傾向が強く、「管理会計(日々の中の業績評価としての数字)」を出すことが大事である。利益を出す会社は、初めから100%を目指すのではなく、「**今がどうなのか**」を管理会計によって把握している。

テーマ3 もっと知りたい「環境問題対策」

ドライバー自らがエコドライブを自発的に実行してもらうことが大切。ドライバーがほどよい緊張感でエコドライブを実行するためにも、**管理者とのコミュニケーションが不可欠**。押し付けではなく、ドライバーの「**心に染み渡る伝え方**」を心がけたい。



テーマ4 もっと知りたい「継続の工夫」

「継続のためには飽きさせないこと」。そのためにも**管理者とドライバー間で目標を設定**。例えば、平等性を保つため車種別の目標点数を設定したり、報奨金制度やコンテストを設けることでドライバーのモチベーションを上げさせる。その他、管理者がマンネリ化しないための施策や工夫を常に考えていくこと。

テーマ5 もっと知りたい「仕組みづくり」

SRの目的や意義を、社員に確認・伝達することを継続する。管理者とドライバー同士がコミュニケーションしやすい環境作りを行う。危険挙動の分析と現場へのフィードバックが必要であり、**現場の状況を踏まえた指導**が求められる。コンテストのほか、ドライバーやその家族に対する配慮や心づかいを忘れない。

テーマ6 もっと知りたい「SR」

SR点数は安全運転や日々の運転の指標になる。コツや意識の違いで点数や燃費が確実に向上する。帰社時や回送(空荷)、同乗走行でも運転の差が出たり年齢でも差が出る。点数は車種にも関係するので、運転内容と同時にドライバーの努力や創意工夫が必要となる。**安全意識の向上はドライバーやその家族、地球環境のため、**という目的につながる。



テーマ7 もっと知りたい「SR」

SR点数の向上には、安全運転できるドライバーが**定期的**に同乗するのが効果的。走行時の段差などによる縦揺れは、ハンドルとスムーズの点数に関係ないことが分かった(ムラのない運転がコツ)。同乗走行によるマンネリ化防止や、班を作り点数を競い合いながら運転技術向上を目指すことも有効である。

株式会社 データ・テック イベント紹介

全国各地にて定期開催! SRセミナー・スケジュール(2011年6~12月)

SRの機能をより深くご理解いただき、お客様の業務に有効活用していただくための学習会です。豊富な導入事例紹介や、意見交換の場を提供いたします。ぜひご参加ください。

6月	北関東地区	9月	中国地区	11月	北関東地区	
	南関東地区		10月		南関東地区	近畿地区
	北陸地区		北海道地区		東北地区	
7月	中国地区	8月	北陸地区	12月	南関東地区	
8月	南関東地区		九州地区			

実際にSRを体感教習できるSR実車セミナーを開催!
日時:10月17日(月) 場所:埼玉・トラック教習センター



第13回 SRお客様交流会のお知らせ

第13回SRお客様交流会の日程が決まりました。詳細は以下のとおりです。
日時:9月8日(木) 13:00
場所:大田区産業プラザPiO 4Fコンベンションホール
(京急蒲田駅下車3分)

株式会社 データ・テック

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
http://www.datatec.co.jp